

令和5年度第1回高梁市行政改革推進委員会 会議要旨

日 時：令和5年8月24日（木）
午前10：00～11：10
会 場：高梁市役所3階大会議室2・3
出席者：委員名簿に記載のとおり
（欠席：大久保委員、小林委員、大西委員）

1. 開 会 2. あいさつ

委員 長) 前回の会議では「高梁市行財政改革プラン（H29～R4）」の実績について、委員の皆様から貴重なご意見をいただいた。令和6年度から新たなプランが施行される予定であり、本日はその骨子について事務局から説明があるので、ご意見をいただきたい。

—事務局より新規委員（高橋委員、土井委員、小林委員、大西委員、上森委員）の紹介—

3. 議 事

(1) 高梁市行財政改革プランの作成について

—資料1をもとに事務局から説明—

委員 長) 委員の方から何か意見があるか。

—意見なし—

(2) 令和5年度高梁市事務事業評価について

—資料2をもとに事務局から説明—

- 委員長) 委員の方から何か意見があるか。
- 宮本委員) 各部署から提出された実績だけでなく、別途、事務局が現場確認等を実施した上で、評価をしているのか。
- 事務局) 現在の仕組みでは、事務局による現場確認等は実施していない。各部会から提出のあった評価シートの中身について、事務局が深掘りをしたい内容があれば、担当部署にヒアリングをし、事業内容をより理解した上で、評価を進めていくよう取り組んでいる。本来であれば1つ1つの事業について現場を見たいところではあるが、対象事業の量が膨大なことに加え、行革の観点から効果が出ていない事業については積極的に見直しを進めていかなければならないという考えもある。そのあたりのバランスも含め、事務事業評価の仕組みは研究していきたい。
- 宮本委員) 何件かに絞って（より綿密に）評価をしたほうが良いのでは。評価シートの紙面だけでは評価が難しい。
- また、現在の仕組みは評価対象事業を3つのグループに分けて、毎年1グループずつ評価をしているとのことだが、この評価対象事業以外にも、長年中身が変わっていないような事業もあると思う。それを是非見直していただきたい。
- 事務局) 事業整理を進めるためには、事業費の大きな事業や市の裁量の大きな事業だけではなく、役割を終えた事業や長年続いている事業を評価対象とする必要がある。対象事業の抽出方法も検討する。
- 藤岡委員) 支出を抑える取組みかと思うが、民間企業の立場からすれば、収入を増やすことが、一番効果があると思う。例えば、高梁市のふ

るさと納税額は近隣に比べて非常に少なく、見直しをしなければならない。また、観光を資源として外貨を稼ぐことや、移住定住や農業を推進することも重要となる。支出を抑えることと両輪で取り組んでいただきたい。

藤岡委員) それぞれの評価シートは市役所内部で作成されたものか。

事務局) 評価シートの作成、及び評価はすべて市役所内部で行っている。

藤岡委員) 吉備中央町では、金融関係、商工関係などの様々な業種の方からなる外部委員が評価をしている。そのような方式も取り入れてはどうか。

事務局) 評価対象事業の数を絞りつつ、専門家など外部の方に意見をいただいた上で、その結果を市に戻すという取組みを実施している自治体もある。他の自治体についても研究したい。

小林委員) 藤岡委員の意見に賛成である。特定の分野に詳しい人が、その分野以外の事業や施設も評価できるような、広く市民が参加できる仕組みが必要。また、特定の分野の代表者だけでなく、2～3人参加できると望ましい。

(3) その他

委員長) 今後の流れは。

事務局) プランについては、これから実施計画の作成を進めていき、年度内に公表の上、来年度からの施行を予定している。今年度のうちに実施計画ができたものについては、来年度予算から反映をしていく。現在の委員の方々の任期は今年の11月までであるため、それまでにもう一度説明の場を設けさせていただくことができるかは分からないが、策定までのスケジュールはそのようにしたい。

藤岡委員) 次期推進委員会は、より様々な業種の方を入れつつ、委員の数を増やしてはどうか。

事務局) 次期推進委員会の構成についても検討している。

事務局) プランの柱として「行政資源の確保」を設定し、その中で「職員の生産性の向上」という視点を盛り込む予定である。これは、少子高齢化の影響で、市職員、特に土木技術職、看護師などの専門職の確保が難しくなっており、今後もその状況は変わらないと見込まれる中、今いる職員の生産性の向上が必要となるからである。

今後のプラン作成の参考とするため、委員の方々から見て、今の職員に足りない部分や、「こういった視点があるといいのではないか」と思われる部分があれば、教えていただけないか。

宮本委員) 現場に行くことが必要。例えば委託事業についても業者に丸投げではなくて、どのように実施されているか確認していただきたい。そうでないと現場と市の間に認識の齟齬が生じる。

土井委員) 市職員が、高梁市全体に目を向けているのか、また、単に仕事だからということ出勤しているのではなく、それ以上深く、財政などに目を向けているのか、と感じている。青年経済協議会で勉強した際も、シビックプライドを持つことの重要性を感じた。市職員もより熱く高梁市に目を向ける必要があるのではないかと思う。

藤岡委員) 職員の意欲には個人差がある。民間企業では、DXの観点を取り入れながら上司が部下の業務状況を確認したり、また、人事考課の導入によって給料に差をつけたりすることで、職員を管理しながら、生産性の向上に努めている。

上森委員) 行政と民間企業とではスピード感が違うと感じている。高梁市図書館では、Microsoft Teamsを導入しており、従業員が「何をしたか」「何を感じたか」を記入し、上司がコメントをしている。絶えずミーティングを通じた情報共有をしながら業務を進めている。

また、市外出身の職員が多いが、高梁市のことをよく知っていると感じる。職員一人ひとりがいきいきと働いていると思う。

宮本委員) 求められるサービスの量に対応しきれないというのは、どの業種も同様の悩みである。業務量を減らしていくしかないを考える。

事務局) 事務局としても、市職員が熱い思いを持ちつつ、また、積極的に現場に行くことが理想であると考えている。現状、職員採用試験において、市出身の受験者が年々減っているところである。面接時に高梁に対する思いを確認しつつ、熱意のある職員を採用できるよう取り組んでいるが、入庁後の職員にそのような意識を根付かせる、高めさせることも必要であり、そのような人材育成ができるよう、制度設計をしていきたい。

D Xについては、庁舎内のWi-Fiの導入など、少しずつ整えているところであり、職場環境の整備には今後も取り組んでいく。

人事評価については、今年度から評価結果を給与に反映させる仕組みを導入している。職員の頑張りが給与にも反映され、モチベーションの向上とともに行政サービスの質の向上につながるようなサイクルを確立させたい。

業務のスピード感については、職員数を増やすことができない中で、D Xを積極的に推進しながら、行政サービスの水準を維持していくことができればと思う。

また、宮本委員のご指摘のとおり、過去から手が付けられていない事業が多く存在しており、それが職員の生産性にも影響していると感じている。旧態依然の事業を整理できるようなチェック体制を確立できればと思う。

4. 閉 会

副委員長) 非常に厳しい財政状況、目まぐるしく変わる社会情勢の中で市民サービスを維持していくのは大変だと思うが、市役所と市民に分かるよう行革を進めていただければと思う。引き続き皆様のご協力をいた

だきたい。